# 2020 年慈善活動報告書







2020年11月

ご支援者の皆様へ

はじめに、ここ沖縄や世界各国で皆様からご支援をいただいている多くの科学者、 次世代の研究者、地域社会を代表して心より感謝申し上げます。

科学の将来、地域社会への貢献、そして科学が社会に利益をもたらす可能性について、私たちは皆同じビジョンを持っています。本学が描く未来のビジョンに対する皆様のご賛同とご厚意にお礼申し上げます。

本学は学際的な科学研究大学院大学として開学してから9年間、意欲的な目標を 掲げてさまざまな取り組みを進めてきました。OISTは研究の卓越性を目指します。 世界最高レベルの科学の恩恵をここ沖縄にもたらす方法を追求します。そして沖 縄の島々を観光地としてではなく、世界の中で科学と起業家精神が集積する地と して、推し進めてまいります。OISTは、世界中から革新的な技術と才能のある発 明者を、日本の中でも他に類のない沖縄という地域に惹きつけています。そして 科学と革新に向けた取り組みの中で、地域社会と世界の中で重要な役割を果たそ うとしています。

皆様のご支援に感謝し、OIST 初となる慈善活動報告書を持って、近年達成してきた成果を報告させていただきます。本報告書は科学研究と教育を中核とする OIST キャンパスから始まり、大学コミュニティ、沖縄と日本、そして世界レベルでの報告へと続きます。本学はグローバルなネットワークを持つ地域に根差した機関であり、世界における喫緊の問題を解決し、可能な対策を革新的方法で模索しています。

2011年にOISTが学生の受け入れを始めて以来、研究の質で日本1位、世界9位にランクインするまでに成長いたしました(Nature Index 2019)。OIST の卒業生は世界でも有数の科学・学術機関において研究に従事し、また産業界における期待の星として活躍しています。これらの成長の多くは皆様のご支援なくしては実現できませんでした。

皆様が本報告書を読んでお楽しみいただけることを願っております。皆様からの ご寄付、本学を支える皆様からのコミットメント、そして私たちの使命に対する 皆様の信頼は、本研究機関の長期的な持続可能性と成長の基盤を築いてくださっ ています。

変わらぬご支援に、感謝の気持ちを込めて。

Pekr JJ

ピーター・グルース

学校法人沖縄科学技術大学院大学学園理事長

沖縄科学技術大学学園学長

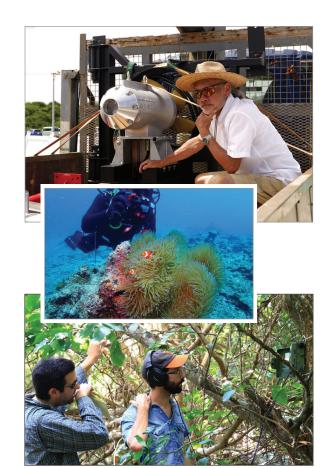
### 科学における新たなイニシアチブ

科学研究と教育は OIST ミッションの中心です。日々、何百人もの教職員、学生、研究者、技術者などが、世界最大の問題の解決策を模索し、発明、検証、発見に向けた努力を続けています。 OIST では広範囲にわたる活動を行っているため、本報告書ですべてをご報告することはできませんが、 OIST における科学技術の卓越性とグローバルなリーダーシップを目指した継続的取り組みの中から、学際的研究や共同研究の例をいくつかご紹介します。

#### 環境データサイエンス

生態学および環境科学の分野において、ビッグデータの収集、キュレーション、統合がますます重要となっています。 2020 年、OIST 財団からの寛大なご支援により、OIST では環境データ管理システム開発が可能となりました。それを活かして、本分野の研究拡大を強力に推進しております。「方法論的かつ厳密な科学的研究を通じ、環境の持続可能性を推進するという大学の取り組みを配慮した支援に感謝します。」とグルース学長は述べています。

本システムは、OIST の全体的なデータ・インフラストラクチャを強化するのみでなく、海洋研究、沖縄における陸地環境監視活動や、アイランド・スキャナーなどのイニシアチブにも役立つものです。アイランド・スキャナーとは、カリフォルニア大学バークレー校の教員と共同で、OIST の生物多様性・複雑性研究ユニットのエヴァン・エコノモ教授が主導する新たなプロジェクトで沖縄、ハワイ、フランス領ポリネシア、マリアナ諸島の生態系の状態をスナップショットによって捉えます。これらの島々の生態系は、生息地の破壊、気候変動、病気、外来種の蔓延により、深刻な脅威にさらされています。



上から下へ:波力エネルギータービンと新竹教授、沖縄でクマノミを探す気候変 動研究者、音響監視装置をテスト中の、エコノモ教授のユニットの研究者達。

#### 海洋科学

海洋科学研究における OIST のリーダーシップに対して過去 10年間、複数の支援者様がご関心を頂いており、その寛大なご寄付をもって日本政府から受けている多大な補助金を補完しています。2012年にはサウジアラムコ社様よりご寄付いただき、サウジアラムコ海洋環境基金が設立しました。また 2015年には佐藤矩行教授のサンゴ礁とサンゴ保護に関する研究のため、今野様御一家より御家族の追悼の寄付としてご支援いただきました。その後 2018年には、公共建物株式会社の山下耕平代表取締役会長兼社長より新竹積教授の波力エネルギープロジェクトを支援する二度目のご寄付を賜りました。

総額 50 万ドルを超えるご支援により、OIST が海流と生物種の拡散、進化と開発、気候変動の影響などのトピックに取り組む研究クラスターの形成が可能となりました。これまでの成果により、気候変動の第一人者であるティモシー・ラバシ教授を始めとする、この分野の教職員を新たに迎える事ができました。2020 年、ラバシ教授はサンゴの未来について、OIST 財団のウェビナー(10 ページ)にて共同発表をしました。また、熱帯魚の環境への順応と適応のメカニズムを研究するため、海洋気候変動ユニットを設立しました。その研究は、沖縄と日本における重要な経済部門である魚の養殖に影響を与えるものであり、沖縄県栽培漁業センターやその他日本の研究機関との協力関係を築いています。

#### 新型コロナウイルスとの闘い

新型コロナが世界に広がるにつれ、多くの OIST 研究者は研究を中断してこの危機的な状況に注力しました。研究者による様々な試みを支援するため、OIST は COVID-19(新型コロナウイルス)対策基金を立ち上げました。「OIST が研究とその結果を沖縄へ提供している。」という理由でご支援くださった勝連盛仁様をはじめこれまで総額約3万ドルにのぼる寄付をいただいています。ご寄付者の中村エリザ様は、「皆さんと一緒にこの状況を乗り越えられるよう協力したいため、微力ながら賛同します。」と述べました。

本対策基金による支援を受けた初期プロジェクトは、3D プリンターを使用したフェイスシールドの製作と、世界保健機関のガイドラインに従って OIST 研究室で作られた「OIST ジェル」の製造でした。OIST は沖縄の最前線で治療を行う医療専門家に 2,000 個のフェイスシールドを寄贈し、OIST ジェルはOIST キャンパスに設置したほか、中部病院、恩納村に寄贈しました。「コロナ対策に沖縄の OIST が貢献するのは、県民として誇りに思います。」と、寄付者の玉城純子様は述べています。

現在進行中の取り組みには、OIST プロボストでウイルス学者のメアリー・コリンズ博士率いる PCR テスト、新型コロナ疾患マッププロジェクトへの参画、エイミー・シェン教授率いるマイクロ・バイオ・ナノ流体ユニットによって開発されたマイクロ流体チップを用いた迅速抗体試験の開発等があります。

本基金にご寄付いただき、先日 OIST 評議員会に加わられた川崎達夫氏は、次のように述べています。「本当に必要な場面において、基礎科学がどのようにポジティブな影響を与えることができるかを示した OIST の積極的な対応に心から感謝しています。OIST のイニシアチブの一員となれたことに誇りを持っています。」



上: 2020 年 4 月 21 日、プロジェクトチームは最初の 400 枚のフェイスシールドを沖縄県に寄贈。下: 3D プリント で作られたフェイスシールドは、新型コロナウイルスの液 滴とエアロゾルをプロックするように設計されている。



河野恵子准教授(右から3番目)がOIST 膜生物学ユニットを率いています。

### OISTにおける女性

**15**% OIST教職員

45% 研究スタッフ

41% 学生

#### 科学の世界で活躍する女性とその活躍への支援

特に日本での STEM 分野(科学・技術・工学・数学)におけるジェンダーギャップを埋めるため、優れた女性リーダー達が OIST のプログラムをサポートしています。ジェンダーの多様性は OIST のコアバリューであり、STEM への女性参画は、全国平均の 2 倍以上です。以前は「サイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ」(7 ページ)と呼ばれていた HiSci Lab、学内保育、無意識の差別・偏見に対するトレーニング、女性候補者からの応募を奨励する教員採用などのプログラムが、OIST の取り組みとして挙げられます。

また、OIST 財団でも科学の分野における女性への支援を優先事項としています。この取り組みは近年行われた財団への2つの寄付によって強化されました。寄付の1つは、科学分野での女性教員数を増やす OIST の取り組みを熱心に支援するマチ・ディルワース博士からであり、もう1つの寄付は男女共同参画の先駆者であり、日本女性リーダー育成支援事業の創設者である厚子・東光・フィッシュ様から1万ドルの寄付をいただきました。

ゴールドマン・サックス・ジャパン副会長のキャシー松井様もまた、ジェンダーダイバーシティ・イニシアチブの強力な支援者のひとりです。松井様は先日、著名な女性科学者のリタ・コルウェル博士を特集した OIST 財団のウェビナーにて、進行役を務めました(10ページ)。

OIST は、STEM 分野、特にリーダーシップ役職における男女格差の解消が世界的な課題でり、OIST や他機関からの長期的な取り組みが必要とされていることを認識しています。この目的のため私たちは、育児福祉、リーダーシップ開発、採用など、女性の昇進を支援するために多面的に使用される基金設立の過程にあります。



### 学生、卒業生、コミュニティライフ

OIST には、キャンパスとその周辺の島々を健康で活気に満ちた魅力的な場所に保つための約50のクラブや受講クラス、組織が存在します。これらのプログラムはOIST の学生が主導しており、キャンパスとコミュニティにおけるつながりを育むためのものです。この目的のため、支援者の皆様におかれまして、以下の2つの基金が用意されています。学生支援セクションの東恩納こずえシニアマネージャーは、「(これらの基金は)女性の内なるリーダーシップを育成し、私たちのコミュニティを豊かにするのに大いに役立ちます。」と述べています。

#### 学生支援基金

学生支援基金は、社会文化、教育、および環境的イニシアチブを通じ、キャンパスおよび周辺コミュニティにおける学生の参画を促進するものです。学生評議会、LGBTQ and Allies、沖縄サイエンスメンタープログラム(7ページ)などのグループをサポートしています。最近卒業したメンターのひとりは、学生支援についてこう述べています。「自分達の限界を突破し STEM の分野で社会にどのように貢献できるかを考えるのを支援します。」

上: アイデアを共有するため、 2018 年に学生達が TEDxOIST を運営。右: POWER の 2020 年 8 月のフードドライブ

多くのクラブは周辺の島々と交流を行っています。本基金は自転車のレンタルなど、キャンパス外での効率的で環境に配慮した移動費用を賄っています。また本基金は、地元の慈善団体と協力して新型コロナやその他の困難な時期に必要な資源を提供する POWER クラブ(沖縄の福祉・経済・物資の促進を目標とした OIST の慈善団体)にとって不可欠なものです。さらに本基金は、スポーツクラブなどの備品の調達にも使われています。

本基金は、教職員、役員、OIST の前学長で名誉会長のジョナサン・ドーファン博士とレネ夫人を含む OIST コミュニティのメンバーからの1万ドルの寄付を受けました。ドーファン前学長は次のように述べています。「皆様の OIST学生へのご支援により、次世代のグローバルサイエンスリーダーが誕生することとなります。このような貢献を通じ、将来にインパクトを与えるためにも、是非多くの方にご参加いただきたいと考えています。」

また、個人的なご支援をいただいた沖縄県議会議長の新里米吉氏を始めとする、学外からご寄付をされた皆様にも感謝しております。沖縄県在住の西山貴子様は、博士課程のGongqi Han さんが案内を務めたキャンパスツアーに参加しました。Han さんの研究と OIST で学んだ日本への理解に大変感銘を受けられ、学生たちの活動に感謝し、本基金にご寄付いただきました。

#### レクリエーションサービス BeActive ファンド

この基金は、文化的に多様な身体活動を通じ、学生とコミュニティのつながりと健康をサポートするものです。 BeActive クラスは、OIST と地域住民にグループ指導を提供します。人気のコースには、ヨガ、筋力トレーニング、フラメンコダンス、三線などがあります。

日本政府からの補助金は OIST でのレクリエーションを 支援していないため、この基金への寄付は、キャンパス 内および地域の運動コミュニティが繁栄を続けるために 不可欠なものです。OIST リーダーシップの匿名メンバー の方から、レクリエーションサービスの一般的な運営と

ハーリークラブに対してそれぞれに約1万ドルの寄付がありました。近年ハーリークラブは世界的に有名な船大工の越來治喜氏に会うため平安座島を訪れ、コミュニティにも貸し出せるチーム用の特製ボートを制作してもらいました。



沖縄の伝統的な船大工である越來さんが OIST のために作った特製ボート。



上:この環境に優しいポリマーは土壌に加えることができるため、大量の水分を保持し、作物の灌漑に必要な水分量を減らすことができる。下:OISTのピーター・グルース学長と日建ハウジングの真保榮ゆかり氏

### 沖縄におけるイノベーション

### 持続可能性とイノベーションとの出会い

毎年、世界中から技術革新に取り組むグループが OIST で定期滞在するアントレプレナー・イン・レジデンスプログラムに参加するため選ばれ、沖縄で持続可能な生活プロジェクト立ち上げに必要な資金、教育、メンターシップ、パートナーシップを享受しています。イノベーションスクエア・スタートアップアクセラレーター(OIST イノベーションスクエア)は、沖縄初のグローバルスタートアッププログラムです。エネルギー、健康、モビリティ、水、農業、住居、資材という、社会に貢献し、環境を守るための7つの分野において、世界を変えるアイデアを持つイノベーターをサポートします。起業家チームは、さまざまなスタートアップベンチャーをサポートするため、特別に設計されたキャンパス内のインキュベーター施設で共にアイデアを育みます。その一部のご紹介を以下に列記します。

- ロシアのチームは、炎症と癌の身体指数を早期に検出するための熱放射センサーを開発しました。
- カナダのチームは、AI テクノロジーを脳型生体運動知覚ネットワークシス テムに応用しました。これにより、高齢者と介護者が、転倒リスクを予測 するためのより良い方法を得ることができます。
- インドのチームは、農業廃棄物を超吸収性ポリマーに変換しました。このポリマーは、気候に優しい天然肥料として機能しながら、水をより効率的に保持して作物に供給します。チームのソリューションは、最も水不足に悩む地域の農家に恩恵をもたらし、EU が支援する世界最大のグリーンビジネスアイデアコンペティションであるクライメート・ローンチパッドの炭素技術部門で高い評価を受け、優勝しました。

OIST イノベーションスクエアは、沖縄のイノベーションエコシステム開発を促進するための幅広い取り組みの一環です。この長期的でより広範なビジョンは、先日の OIST 財団ウェビナー「日本における起業家精神の科学」(10 ページ)において専門家による活発な議論の焦点となりました。

OIST イノベーションスクエアは、官民両方から支援を受けており、その中には沖縄の不動産会社、日建ハウジングからいただいた 95,000 ドルの寄付も含まれています。地球の天然資源を持続可能な方法で利用し生活を向上するスタートアップチームを支援するため、日健ハウジングアクセラレーターファンドを創設しました。「産業界も、行政や学術界と協力しながら、社会が直面する課題の解決に取り組まなくてはなりません。沖縄と沖縄の自然環境に貢献し、沖縄を世界につなげる将来のイノベーターの教育や育成を、日建ハウジングは応援したいと考えています。」と、同社取締役である眞保榮ゆかり氏は語りました。

上記に関連し、グルース学長は以下のように述べています。「日建ハウジング 様からのご寄付に大変感謝しています。将来的に、より革新的な人材、生活 を一新するアイデア、そして賢明な成長の機会を沖縄にもたらす同様のパー トナーシップを皆様と築いていきたいと考えています。」



### 教育アウトリーチ活動

沖縄県などの資料によると、沖縄は全国学力テストの順位、および高等教育を目指す若者の割合(36%)が全国平均よりも低くなっています。その後の進学においても、科学を専攻とする学生はさらに少数です。そのため OIST は、コミュニティにおける STEM 教育の推進に取り組んでいます。

#### 海外からの寄付によるローカル STEM 教育の促進

日本政府から OIST の研究および大学院教育活動への助成金を受ける一方、 OIST のコミュニティープログラムは、海外からの外部資金により成り立って います。

沖縄では、ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメントの参加選手や主催者様からの寄付で構成されるオーキッドバウンティが、このほど OIST に助成金を贈呈しました。「沖縄の自然環境保全や未来の女性技術者創出などの OIST の活動には目を見張るものがあり、今後も OIST のさらなる沖縄地域 貢献活動に注目していきたいと考えております。」と基金の事務局スタッフは述べています。

米国の寄付者の方々からもこの取組にご賛同をいただいています。OIST の評議員であるロバート・ナカソネ氏は、ハワイで OIST のための基金イベントを開催し、25,000 ドルの寄付をしてくださいました。ナカソネ氏のご寄付は、沖縄科学技術大学院大学発展促進県民会議が年間約 180 万円を OIST の地域連携プログラムに配分している資金を補完するものです。シアトル在住の沖縄系アメリカ人のショウコ・ファーマー氏からは、個人としての寄付に加え、彼女が勤務するラッセル・インベストメント社からもご寄付いただきました。ニューヨークの Tanaka Memorial Foundation からは、2 件の助成金のご誓約をいただきました。財団会長の上島万紀子氏は次のように述べています。「私たちは、沖縄の若者向けの STEM 教育の広がりを支援する OIST 財団の取り組みを誇りに思っています。これらの取り組みは、沖縄、日本、そして世界に素晴らしい新たな機会を提供することでしょう。」

最近、新たなサイエンス教育アウトリーチチームが結成された本学のミサキ・タカバヤシ副研究科長は、「皆様のご支援に心より感謝申し上げます。」と謝意を述べています。



### OISTのSTEM アウトリーチ プログラム

- こどもかがく教室
- HiSci Lab、(旧名称はサイエンスプロジェクト for 琉球ガールズ)
- OIST サイエンスフェスタ
- OKEON 美ら森プロジェクト
- 沖縄サイエンスメンタープログラム
- スコア!サイエンス in 沖縄 起業の為の 研究
- 離島への出張
- 大学マリーン・イニシアティブ

▲ 沖縄の高校生が表面張力を体験している写真



原野 新渚さんと大学院メンターの Collin Stecker さん

#### OIST のメンターから未来の科学者へ

沖縄サイエンスメンタープログラム(OSMP)は、夏の6週間、高校生と大学院生が週に一度共に時間を過ごす機会を作るものです。参加学生たちは、メンターとの交流を通じて科学の世界を深く体験します。

「私の夢は研究者になることです。そのため、英語によるマンツーマンの科学 指導というこの特別な機会を逃すことはできませんでした。」と沖縄本島の南 約300キロに位置する宮古島から毎週キャンパスへ通った洲鎌美空さんはコ メントしています。洲鎌さんは生物化学と薬学に興味を持ち、副作用のない 薬の発明を目標としています。

OIST で開催されたサマーキャンプの OSMP とインターナショナルスクール オブサイエンスジャパンに参加した原野 新渚さんは、キャンパスでの経験が、米国の大学に入学申請を行うきっかけになったと言います。「私は OIST における多様性にとても刺激を受けました。 英語を母国語としない学生が言語の壁を打ち破り、科学の世界に飛び込むために集まっています。」と述べています。大学進学時期には OIST での経験についてエッセイを書きました。現在、原野さんはニューヨークにあるコロンビア大学の学生となり、神経科学の専攻を予定しています。将来は、神経眼科医になり、宇宙飛行士が無重力環境で経験する視覚の問題を解決したいと考えています。



#### 設立出資者

Ms. Kimberly Andrews

Anonymous

Ms. Ami Chinen

Ms. Claire Chino

Dr. Gary Cleary

Mrs. Nobuko Saito Cleary

Dr. Rita Colwell

Dr. Gregory Dilworth

Dr. Machi Dilworth

Ms. Rhonda Donahoe

Dr. Jonathan Dorfan Mrs. Renée Dorfan

Ms. Shoko Farmer

Mr. James Gannon

Lt. Gen. Wallace "Chip" Gregson, USMC, Ret.

Mr. Karén Hakobyan

Mr. Paul Hastings

Mr. Carl Hoffman

Ms. Sanae Hori

Mr. William Hunt

Ms. Riki Ito

伊藤忠商事株式会社

Mr. David Janes

Mrs. Patricia Janes

日本国際交流センター(JCIE/USA)

日米友好基金

Mrs. Eiko Kano

Mr. Minoru Kano

Dr. Yuko Kakazu

Mr. Nasser Kazeminy

Rear Adm. James D. Kelly, USN, Ret.

Mr. James Kondo

Ms. Ayako Kotani

Mr. Edward Kuba

Mr. Eiichiro Kuwana

Mrs. Yumi Kuwana

Dr. Tom Lough

Dr. Faisal Mahmood

Mr. Gary Moriwaki

Mr. Dave Murphy

Dr. Cherry Murray

Okinawa Cultural Performance

Russell Investments

Ms. Chisato Sakamoto

Tanaka Memorial Foundation

Mr. Tomovuki Uehara

Mrs. Makiko Ueshima

Mr. Takeshi Ueshima

Ms. Donna Vuchinich

Dr. Barry Whyte

Ms. Julie Meier Wright

Mr. Kenichiro Yamashiro

Mr. Yasumasa Yamamoto Dr. Robert Yanaqisawa

Ms. Magdalen Yum

2020年11月

親愛なる皆様、

OIST 財団は、ビジョンを兼ね備えたチャータースポンサーの皆様のご支援のおかげで、この困難な時期に沖縄科学技術大学院大学(OIST)における研究および関連プログラムを通じ、革新的かつグローバルなサイエンスにおけるブレークスルーの促進支援を行っております。同時に、米国と日本の二国間の友好関係の強化に努め、沖縄の持続可能な開発を支援する機会を米国民に提供し、OISTを通じて日米関係を深める役割を担っています。OIST 財団設立からわずか1年ですが、財団がその使命を遂行する上で目覚ましい前進を遂げられたことを報告できることを大変嬉しく思います。

次ページより記載される OIST 財団のプログラムと活動は、科学とイノベーションにフォーカスする日米関係にとって重要なトピックと活躍される方々をご紹介しております。主に OIST を通じて両国の著名な科学者を集結し、全世界で非常に憂慮されている問題に対する研究課題、疑問点、およびテーマについて議論しております。科学だけでなく、日米の歴史、沖縄文化、クラシック音楽、気候変動、ビジネスや起業家精神などの幅広い体験に関する一連のダイナミックな議論と対話を通じ、財団はより多くのことを成し遂げ、1,000人以上の世界中の個人の方々が参加するものとなりました。リーダーシップを取る方々や強力に支援して下さっている OIST メンバーの中には、この成長しつつある二国間コミュニティへの慈善活動的な寄付も合わせて行ってくださる方もいらっしゃいます。

今後も OIST と共に、沖縄と米国を知的かつ経験的につなぐ架け橋を築いてまいります。財団理事会を代表し、財団の設立を祝うための慈善活動に貢献してくださった米国の個人や機関の皆様に、心からの謝意を表します。運営の初期管理費を賄うための重要なご支援をくださったナセル・カゼミニー氏には特に感謝しております。最後になりましたが、私たちの使命を支援するすべての支援者の皆様に、心からの感謝を申し上げたいと思います。このコミュニティを共に築き上げる機会をいただけたこと、そして科学、沖縄、日米の将来への関係に対する皆様の熱意を共有いただけることを光栄に思います。

心からの敬意を込めて。

Holles

上島剛

OIST 財団理事長



### 沖縄と世界の架け橋に

#### OIST 財団設立を祝して

2019 年 11 月 14 日にワシントン DC の杉山晋輔駐米大使公邸にて、OIST 財団設立をお披露目する式典が開催されました。ゲストとして、日米両国の政府関係者、ビジネス界・学術界、在米沖縄関係者や日米関係のリーダー、沖縄県の代表者、米国の日本関係者、OIST 財団理事および顧問、OIST 教職員が参加しました。

イベントにはご参加いただけなかったものの、ノーベル賞受賞者で12代目米国エネルギー長官のスティーブン・チュー氏がメッセージを寄せてくださいました。「OISTの歩みはまだ始まったばかりです。この歩みを続けるためには、国際的な認識を高めて支援を受けやすい環境を整える必要があります。沖縄科学技術学院大学財団の発足は、OISTの崇高な目標を達成するための重要な一歩となることでしょう。」



たから右:OIST 財団の寄付者 であり理事のナセル・カゼミ ニー氏、ヘリテージファンド マネージメント LLC 創設者兼 CIO かつ OIST 財団理事会議長 の上島剛氏、Tanaka Memorial Foundation 会長の上島万紀子氏 (7ページ)、ピーター・グルー ス OIST 学長



♣デイヴィッド・ジェーンズ氏(左端)が進行役を担い、
OIST プロボストのメアリー・コリンズ博士、エヴァン・
エコノモ教授、ケシャブ・ダニ准教授、福永泉美准教
授がパネルディスカッションを行った。

okinawa Cultural Performance のパフォーマンスによるご寄付を通じ、沖縄の伝統的な太鼓踊りであるエイサーを楽しむ参加者。

### 米国の支援者の方々と OIST をつなげる財団

OIST が沖縄と世界に与える影響を認識し、アメリカにおける支援者の方々が 2019 年に OIST 財団を設立しました。 米国で税金優遇措置対象の非営利団体として、OIST の研究、教育、および地域社会へのアウトリーチ活動に対して 米国在住の方々からご支援いただけるようになりました。

財団設立にあたり、ジョン・ルース元駐日米国大使は声明の中で次のように述べています。「OIST 財団は、アジアの科学革新の最前線に立つ可能性が高い日本の地域との関わりをアメリカかにおいて提供する上で重要な役割を果たすこととなります。」

財団の業務執行代表兼セクレタリーであるデイヴィッド・ジェーンズ氏も同意し、「多くのアメリカ人がこのビジョンを理解し、この素晴らしいプロジェクトに熱く貢献してくださることを願っています。」と述べています。

寛大な支援者の皆様からのご寄付は、このことが既に現実となっていることを証明しています。50を超える個人および機関のチャータースポンサーから財団設立を支えていただき、さらに多くの方からご支援をいただいています。

財団は2年目に入り、OISTの革新的な活動促進および沖縄の持続可能な開発支援のため、日米関係を深めるさまざまな教育イベント(10ページ)を支援しています。両国において世界で最も進んだ科学研究が複数進められており、二国間の関係は非常に重要となっています。「優れた研究を行うには、世界中から最高の人材を集める必要があります。そのためには資金が必要です。米国の皆様が沖縄社会への利益に貢献するためOIST財団を設立してくださったことを感謝致します。」と、グルース学長は述べています。

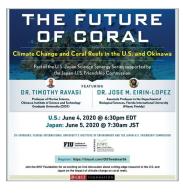
#### 新シリーズが日米科学の相乗効果にスポットライト

科学技術において日米は深い協力関係にありますが、一般にはあまり知られていません。特に国際協力への障壁が高まっているように見える現在において、日米の科学における協力関係を前面に持ち出すことは、協力を深めるための新しい方法を模索する機会を提供してくれます。協力関係に存在感を持たせるため、日米間の共同イニシアチブを促進する独立した米国連邦機関である日米友好基金(JUSFC)により、初の日米科学シナジーシリーズである財団に 5,000 ドルの助成金が与えられました。

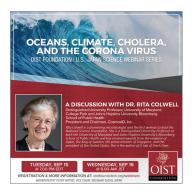
#### 本プログラムは、両国の著名な科学者の力を集結し、以下を取り組んでいます。

- 1. 科学技術研究において日本が現在と未来においてどのような重要な役割を果たせるかを提示
- 2. OIST 財団および OIST と全米機関の関係を強化する上で有益なつながりを構築し、強化
- 3. OIST 支援研究者がシリーズに直接関与し、OIST の存在感とネットワークを増強

当初は対面での会合を想定していましたが、新型コロナの蔓延により、本シリーズは現在バーチャルで行われています。 2020 年 6 月に開催された最初のイベントにおいては、気候変動がサンゴ礁に与える影響に関する最先端の研究の調査を行いました。「サンゴの未来:米国と沖縄における気候変動とサンゴ礁」では、OIST の海洋科学教授であるティモシー・ラバシ教授が発表を行いました(3 ページ)。このシリーズは、OIST 財団の既存オンライン教育サービスを補完するものとなっています。







#### オンラインイベントがつなぐ OIST と世界

日米科学シナジーシリーズに加え、財団は新型コロナの蔓延に対処するため、その 他のオンラインプログラムや活動を開発しました。

#### 日米サイエンスウェビナーシリーズ

財団の主要な教育プログラムとして、このシリーズは、重要な科学的および革新的なトピックと、以下のような日米関係にとって重要な人々に焦点を当てています。

• 海洋、気候、コレラ、新型コロナウイルス

アメリカ国立科学財団を率いた最初の女性であり、OIST 理事でもあるリタ・コルウェル博士が、今日地球が直面している世界的な課題についての洞察を紹介しました。また、科学分野で女性が直面する障壁についても触れています。コルウェル博士は、プログラムモデレーターでありゴールドマン・サックス・ジャパン副会長のキャシー松井氏に「OIST 理事会に参加できることをとても誇りに思います。女性科学者を採用するため、多くの努力を重ねています。」と語っています。

日本の起業家精神の科学

このウェビナーでは、日本で起業家になるための課題とその機会、イノベーション・エコシステムの育成における高等教育の役割、起業家精神を促進するための日米パートナーシップを深める方法について、パネルディスカッションが行われました。

#### 共開ウェビナー

共催ウェビナーイベントでは、米国、日本、および世界中の著名な機関とのパート ナーシップを特徴としています。

• オンライン時代における国境を越えた絆の強化:米国、日本、フィリピン における研究と教育交流

フルブライト・ジャパン、フルブライト・フィリピン、OIST 財団が協力し、 新型コロナウイルスが高等教育に与える影響を調査しました。パネリスト は、世界各国がオンライン形式にますます移行する中で、国際的な教育交 流を促進する方法について話し合いました。

開催された全ウェビナーの閲覧や、今後のイベント検索には、oistfoundation.org/webinarsにアクセスしてください。

## OIST 最大のニーズを支えるプレジデント・ファンド

プレジデント・ファンド(学長基金)とは、OIST の変化するニーズに柔軟かつ必要に応じて即座に対応可能とし、寄付の使途に制約を持たない資金から構成されています。本基金は、嘉数様御一家からの約2万ドル、OIST の創設学長シドニー・ブレナー博士からの約5万ドルによる初期の寄付により、本基金の設立が可能となりました。

現在、プレジデント・ファンドには、世界中の OIST 支援者や OIST ファミリーから寄付が寄せられています。セナパティ・ゴパラクリシュナン氏(通称クリス氏)は、2017 年の OIST 理事会参加以来、本基金を熱心に支援されています。OIST の現学長であるピーター・グルース博士も貢献しています。

様々な方々からの寄付により、本学は日本政府の補助金への依存を徐々に減らすことに努めています。この一年間、プレジデント・ファンドは本報告書でご紹介したイニシアチブを含め、OIST 全体的な発展のための戦略的パートナーシップを構築するための訪問やイベントを支援してきました。

# 全ての使途目的に 対する過去5年間 の資金調達累計

2015年4月1日~2020年3月31日

¥125,846,647 \$1,194,788

## 皆様からのご支援とご協力に感謝致します。

科学技術の国際的に優れた教育と研究を行い、沖縄の持続可能な発展に貢献するという私たちの使命を今後も続けてまいります。皆様のご支援により、OIST は日本および世界の科学技術の発展を促進し、維持することが可能となっています。



groups.oist.jp/giving donation@oist.jp

OIST財団 米国ニューヨーク州 oistfoundation.org/donate in fo@o ist foundation.org